

市長と共に語る 地区懇談会

最終回は、麻生地区の懇談会の主な内容についてご紹介します。

麻生地区

道路整備と関高バイパス

問 高速道路が開通したら、行方市にはどのようなメリットがありますか。

答 産業経済活動の促進、緊急時の輸送路の確保による安心安全度のアップ、就業や観光のエリア拡大など、諸々の関連があると思います。

また、高速道路が都市計画決定になれば、今後の市の道路計画や振興計画も立てやすくなるかと考えています。



問 旧町時代の話ですが、平成4年に道路の拡幅工事を要望書で提出しても、いまだに進捗が見られません。生活道路であるため、早期の着工をお願いしたいのですが。

答 地域の切実な要望にお答えできず、申し訳ないと思います。

道路整備の要望は旧麻生町だけでも100本程度あるため、一度には改修できません。今後は財政規模の縮小を図らねばならないため、必要性を見極めながら一つ一つ実施してまいります。今年には旧麻生地区で26路線の道路整備を計画しています。

治山治水工事

問 山は削られ、農地は荒れ放題です。木が水を抱くには40〜50年かかります。長期のビジョンを持って、治山治水にがんばってほしいと思います。

答 地区懇談会の中で、水の浄化には植林が不可欠のご意見をいただいたております。

市内の山林は、土採取後はそのままになっているところもあるので、植林をしていく体制を作らねばならないと考えています。

財政力向上

問 行方市の基幹産業は農業ですが、外国産の進出などがあり、将来的に難しい面も出てくると思われれます。現在の財源は交付金や特例債だと思いが、今後はどのようにして、市の財源を導いていこうと考えていますか。

答 現在、市税等の自主財源は少ないので、歳出については、人件費のような事務経費をスリム化していく必要があります。また、行政に対する要望が多くなっているため、これからは市民の方々にも、自分たちでできることは自分たちでやっていただかねば、支出は減少できません。

歳入増を図るには、企業誘致を積極的に促進することが必要であり、企業誘致が実現できると働けるところが確保されるため、若者が帰ってくれば人口増にもつながります。元気な街を目指したいと考えています。

文化財向上

問 旧三町には貴重な歴史資料がたくさんあるので、ぜひ整理・保管できる場所をつくってください。

答 行方市には貴重な文化財がたくさんあります。ただ保存には財源も必要となります。できるだけ努力していきたいと思えます。

新庁舎建設

問 分庁方式と本庁方式では、大きく

違いがあると思いますが、新庁舎の建設はどのように行われていくのですか。

答 新庁舎建設は、合併協議会の協定事項であり、市の中心付近へ速やかに建設することになっていきます。具体的な内容は、新庁舎建設検討委員会で市民の方々の意見を取り入れながら決定してまいります。

問 新庁舎を建てると、財政状況に大きな影響を与えるのではないかと思います。どうなのでしょう。

答 現在の3庁舎を利用する分庁方式から一つの庁舎に機能を集中させる本庁方式へ移行することで、人員削減が可能となります。人件費の削減効果が見込まれますので、この削減費用を新庁舎建設費用にあてるという考え方を持っています。また、建設の方針や時期については、財政状況を考慮し皆さんの意見を踏まえて考えていきます。窓口サービス部門を本庁舎のほかに設置するかなども含めて、新庁舎建設検討委員会で検討していただきます。

まちづくり

問 市民会議には、いつも既存の団体や組織の方が入り、新しい人による新しい意見が入りにくい気がします。

答 市総合計画でのまちづくり市民会議の委員は、公募によって広く一般市民を対象に募りました。また、講師の先生などは、広く県内外の方を招いています。